

令和4年度

# 事業報告書

自 令和4年4月1日

至 令和5年3月31日

公益財団法人釜石・大槌地域産業育成センター

## 公益財団法人釜石・大槌地域産業育成センター 令和4年度事業活動報告

新型コロナウイルスが令和元年に初めて確認されて以降、世界中の経済・社会活動は大きな影響を受けました。その後、ワクチンの普及やウイルスの変異により、コロナ禍は着実に解消に向かっている一方で、ウクライナ等世界情勢の悪化に伴うエネルギー高や原料高、更には当地域の主要産業である水産業においては、主要魚種の不漁による原料不足も深刻さを増すなど、地域企業を取り巻く経営環境は厳しい状況が続いている中で、当センターは各関係機関との連携のもと、様々な支援事業を実施いたしました。

令和4年度は、「インテリジェント吸波式波力発電による地域経済循環ビジネスモデル実証事業（環境省委託事業）」も3年目を迎え、いよいよ実証試験も始まり、釜石沖海洋再生可能エネルギー実証フィールドの活用事業者との連携を図るなど、地域実装に向けて着実に事業を進めてまいりました。また、本年3月には約5年ぶりとなる東京で食のイベントを開催し、当地域の特産品をPRいたしました。また、地域の多様な支援ニーズにこたえるため、釜石市・大槌町からの従来の補助事業に加え、岩手県からの補助事業であるDXの導入・推進事業を目的とした「地域活性化雇用創造プロジェクト事業」、沿岸広域振興局から、企業の経営基盤強化を目的とした「ものづくり人材育成事業」、NTT東日本から、新たな地域資源として期待される釜石はまゆりサクラマスのブランディング戦略策定に向けた基礎的データの収集分析業務「釜石サクラマスブランド化支援事業」等をそれぞれ受託実施するなど、今後の地域創成の要と期待される様々な分野の事業を実施しております。

令和5年度も引き続き、外部資金の獲得を目指し事業内容の充実を図ると共に、岩手県、釜石市、大槌町の関係部門や大学等との連携を図り、地域中小企業に必要とされる産業支援機関として、その役割を果たしてまいりたいと考えております。

## 【 公 1 地域産業育成支援事業 】

### 1. 海洋エネルギー関連産業創出事業（釜石市補助事業）

決算額：4,121,030円（釜石市4,121,030円）

#### 1 目的

岩手県海洋エネルギー産業化研究会の運営により、地場企業が海洋エネルギー産業へ参入する機会を促進し、研究開発や事業化を進めながら、地域経済の活性化と雇用の創出を図る。

#### 2 実施内容

##### (1) コーディネーターの配置

研究会活動をコーディネートする専門職員として、海洋エネルギー産業化コーディネーターを配置した。

##### (2) 海洋エネルギー産業化研究会の開催及び情報発信

海洋エネルギーに関する最新動向や専門家からの研究開発状況等の講演により地域企業の機運醸成と会員相互の交流促進を図るべく、下記のとおり開催した。また、専用ホームページにて研究会の開催状況等、情報発信した。

開催日	開催概要
R4.12.22（木）	「定期総会・第1回産業化研究会」 会 場：釜石・大槌地域産業育成センター 参加者：52名（現地&オンラインのハイブリッド開催） 内 容： 【定期総会】 事業報告及び事業計画 【講演会】 (1)「波力発電の現状と今後の展望」 足利大学 講師 飯野 光政 氏 (2)「平塚市における波力発電プロジェクトについて」 平塚市 産業振興課 産業活性化担当 主査 堂谷 拓 氏 【取組説明】 (1) 環境省委託事業（波力発電プロジェクト）の取組状況 (公財)釜石・大槌地域産業育成センター 海洋エネルギー産業化コーディネーター 小笠原 順一 (2) 岩手県における海洋再生可能エネルギーの取組について 岩手県 ふるさと振興部 科学・情報政策室 科学技術担当課長 佐藤 光勇 氏

R5. 3. 17 (金)	<p>「第2回産業化研究会」</p> <p>会 場：釜石・大槌地域産業育成センター</p> <p>参加者：48名（現地&amp;オンラインのハイブリッド開催）</p> <p>※「岩手県海洋エネルギーシンポジウム」と共催</p> <p>【取組説明】</p> <p>(1)「洋上風力発電施設と漁業協調」</p> <p style="padding-left: 40px;">(一財) 漁港漁場漁村総合研究所</p> <p style="padding-left: 80px;">常務理事 伊藤 靖 氏</p> <p>(2)「海洋研究開発機構(JAMSTEC)における波力発電装置研究開発の経緯ならびに現在の事業概要について」</p> <p style="padding-left: 40px;">(一社) 海洋産業研究・振興協会</p> <p style="padding-left: 80px;">監事 鷲尾 幸久 氏</p> <p>【取組説明】</p> <p>環境省委託事業（波力発電プロジェクト）の実証事業期間の延長について</p> <p style="padding-left: 40px;">(公財) 釜石・大槌地域産業育成センター</p> <p style="padding-left: 80px;">海洋エネルギー産業化コーディネーター 小笠原 順一</p>
---------------	--

### (3) 事業化検討会の開催

環境省委託事業の事業化に向けた実施体制や波力発電システムの低コスト化、普及の見込等を検討するために、東京大学先端科学技術研究センター谷口信雄協力研究員をアドバイザーとして事業化検討会を定期的に開催し、以下に示す検討項目と対応方針を取り纏めた。

#### 【主な協議内容】

- ・コスト低減化の諸課題、付加価値の創造、普及計画等

#### 「地域経済循環型波力発電 事業化（実用化）計画検討項目」

No.	大項目	中項目	今後の方針
1.	コスト低減	①調査・設計	基本設計段階の「設計手順書のフォーマット化」 設置場所ごとに0から始めない＝設計費用の低廉化検討
		②製造	各部材のユニット化 ⇒ 量産化対応のコスト低減、素材の検討
		③設置	設置工法、工数の見直しと集約化の検討
		④メンテナンス	他地域展開に対応するマニュアル化、長期運転信頼性の確立
2.	付加価値化	①出力・性能の向上	エネルギー取得率、変換効率の向上、運転範囲の拡張 ⇒設備利用率の向上の検討、エネルギー MIXの検討
		②防波堤の多目的利用	地域経済循環による裨益効果による利用制限の緩和について国交省や経産省との協議を進めるとともに要望活動も展開する
3.	普及	①製造体制	㈱マリンエナジーが主幹となり、地域の再エネ関連ものづくりクラスターを強化し、サプライチェーンを構築する準備中
		②普及（販売）営業体制	㈱マリンエナジー社内に営業部門を設置し、地域経済循環ビジネスモデルの運用と並行し、見学視察の積極的な受け入れを行うことと併せて、関連展示会への出展等による PRを行う
		③地域外メンテナンス	普及先（自治体等）への営業活動と並行して、漁港建設業協会等と連携し、現地の施工およびメンテナンス企業の開拓もを行い、将来的にはネットワーク化を進める体制を検討中
4.	その他	設置の各種許認可対応	2_②と併せて、自治体を共同実施者とする運用公社設立を協議中

(4) 釜石沖海洋資源利活用ネットワークの開催

釜石沖海洋再生可能エネルギー実証フィールドの利活用案件に係る意見交換を目的に、釜石沖海洋資源利活用ネットワークを開催した。

開催日	開催概要
R5. 2. 10 (金)	会 場：釜石・大槌地域産業育成センター 参加者：21 名 内 容：釜石沖海洋再生可能エネルギー実証フィールドの利用を希望している 2 社 (3 案件) についての意見交換

(5) 高校生に対する講演・ワークショップの開催等

○釜石高校 SSH フィールドワーク

開催日	取組概要
R4. 5. 12 (木)	会 場：マリンエネルギー陸上観測所 参加者：1 年生 20 名 内 容：海洋エネルギーについて講義を行うとともに、脱酸素社会の実現に向けたマイアクションを考えるワークショップを実施

○釜石商工高校 地域魅力発見講座

開催日	取組概要
R4. 12. 1 (木)	会 場：釜石商工高校 視聴覚室 参加者：電気電子科 10 名、機械科 23 名 内 容：釜石で取り組んでいる波力発電の概要と地域で海洋再生可能エネルギーへ取り組む意義・将来の展望についての講義

(6) PR、パネル展示等

○「海と希望の学園祭」への出展

開催日	取組概要
R4. 11. 5 (土) ~6 (日)	会 場：釜石市民交流センター TETTO 内 容：波力発電プロジェクト (環境省委託事業) の動画再生、パネル等の展示

(7) 波力発電施設の視察・見学への対応

波力発電施設の視察・見学及び報道関係取材への対応を行った。来訪者のおよそ 3 割が市内に宿泊するなどの経済波及効果があった。

- ・来訪者：19 団体 157 名
- ・主な来訪者：岩手県議会、宮城県議会、岩手大学水産コース、いわて水産アカデミー、足利大学、国際基督教大学、東北電気管理技術者協会、ほか

### 3 結果

#### 【成果目標／指標及び実績】

- (1) 海洋エネルギー関連産業の創出につながる新たな検討テーマの発掘（3件）⇒**3件**
- ①環境省「地域脱炭素移行・再エネ推進交付金」の地域行政との共同提案の検討
  - ②海洋再生可能エネルギー電力による陸上養殖システムの開発
  - ③防波堤以外への普及展開の検討（水産庁所管の漁港展開の可能性検討）

- (2) (1) により発掘された検討テーマの実施に向けたプロジェクト化（1件）⇒**1件**  
「地域の未利用資源を活かした次世代複合型水産増養殖システム」の実証試験

#### 【内容】

- ・波力発電によるクリーンな電力を海水ポンプ等に活用し、資源の減少が危ぶまれている市場価値の高い、アワビ、ナマコ等を同一の水槽で養殖するもの。  
段階的にウニや魚類との複合化や塩生植物をセットしたアクアポニックスへの発展も検討する。（令和5年9月～ 実証試験開始）
- ・700w×4000Lの水槽2基をコンテナ内に設置し、海水をかけ流し方式、水温と室温の管理と専用餌料の給餌により養殖を行っている。へい死率は低く順調に生育中。

#### 【サイズ、数量】

- ・アワビ 30mm 300個、 50mm 200個、 60mm 150個
- ・ナマコ 30mm 200個、 100mm 20個
- ・将来的には再生可能エネルギーとセットにした“ECO コンテナ増養殖システム”として商用化を検討していく。



陸上養殖コンテナ



養殖水槽（アワビ、ナマコ）

- (3) 産業化研究会会員の増加（5社）→ **1社**

- ・「海洋エネルギー産業化研究会」（R5.3月現在）  
会員数：64社（企業48、大学・公設試5、行政7、商工団体・支援機関4）

## 2. インテリジェント吸波式波力発電による地域経済循環ビジネスモデル実証事業

(環境省委託事業)

決算額：931,667円（環境省931,667円）※期間延長

### 1 目的

釜石湾口防波堤で波エネルギーを吸収し、低コストで複数の高効率波条件運転を可能とするセンシング+AI（機械学習）を有するインテリジェント（考える）な波力発電システムを設置し、地域経済循環ビジネスモデルの実現化を目指す。

### 2 実施内容

#### (1) 実施体制

##### ○代表事業者

- ・株式会社マリンエナジー

##### ○共同実施者

- ・東京大学先端科学技術研究センター
- ・足利大学
- ・一般社団法人ブローホール波力発電機構
- ・国立研究開発法人海上・港湾・航空技術研究所 港湾空港技術研究所
- ・公益財団法人釜石・大槌地域産業育成センター

#### (2) 実施項目

##### ○技術開発項目及び担当

No.	技術開発項目	担当
1	一次変換部開発 ①スリット防波堤への設置・海底ケーブル敷設・撤去	マリンエナジー、 ブローホール機構
2	二次変換部開発 ①発電部機械室製造・設置・撤去	マリンエナジー、 足利大、 ブローホール機構
3	インテリジェント吸波式波力発電システムの実証試験・評価試験と実用化評価 ①一次変換部の設計・耐久性・安全性の評価 ②インテリジェント吸波式波力発電システムの発電性能評価 ③運用・保守技術の高度化実証 ④インテリジェント吸波式波力発電システムの設計・技術仕様の実用化評価	マリンエナジー、 足利大、東京大、 ブローホール機構
4	地域経済循環ビジネスモデルの検討と評価	マリンエナジー、 足利大、東京大、 ブローホール機構、

		産業育成センター
5	釜石沖海洋資源利活用の実現化検討	産業育成センター

当センターは、上記項目の4及び5を担当し、以下を実施した。

### (3) 実施内容

#### ①地域経済循環ビジネスモデルの検討と評価

商業化を意識した波力発電システムの発電量とコスト評価を行うとともに、発電システムの改善・コスト低減を踏まえた事業性の検討を行い、再生可能エネルギー事業と漁業との協調策などの地域付加価値創造を含めた地域経済循環ビジネスモデルの具体的な事業計画の構築と、普及・展開のための課題の整理と検討を行った。

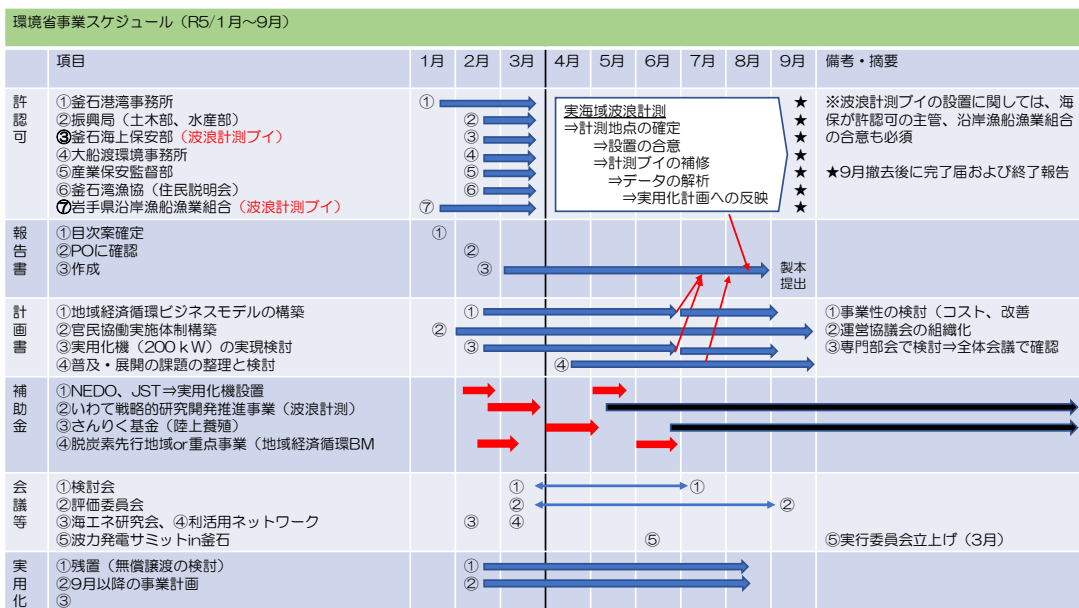
#### ア) 実証事業期間延長への対応

現在、実証試験は順調に稼働しているが、①発電開始が8月からのため通年で実証データの取得ができないこと、②今後の他地域への普及展開を検討していくためにはより精度の高い発電量および性能予測が必要であり、それが課題となっていることから、通年での実証データを取得し、今後の発電量予測の精度向上に寄与するため次に示す追加の波浪計測を行うことについて、環境省の了承を得て実証試験期間を延長することとした。

#### ■ 期間延長に伴う変更内容

- ・6ヶ月間の延長(令和5年3月末 → 令和5年9月末)
- ・波浪計測位置の追加(防波堤中央部、中間地点の2点追加)
- ・通年データ取得による発電量および性能予測の精度向上

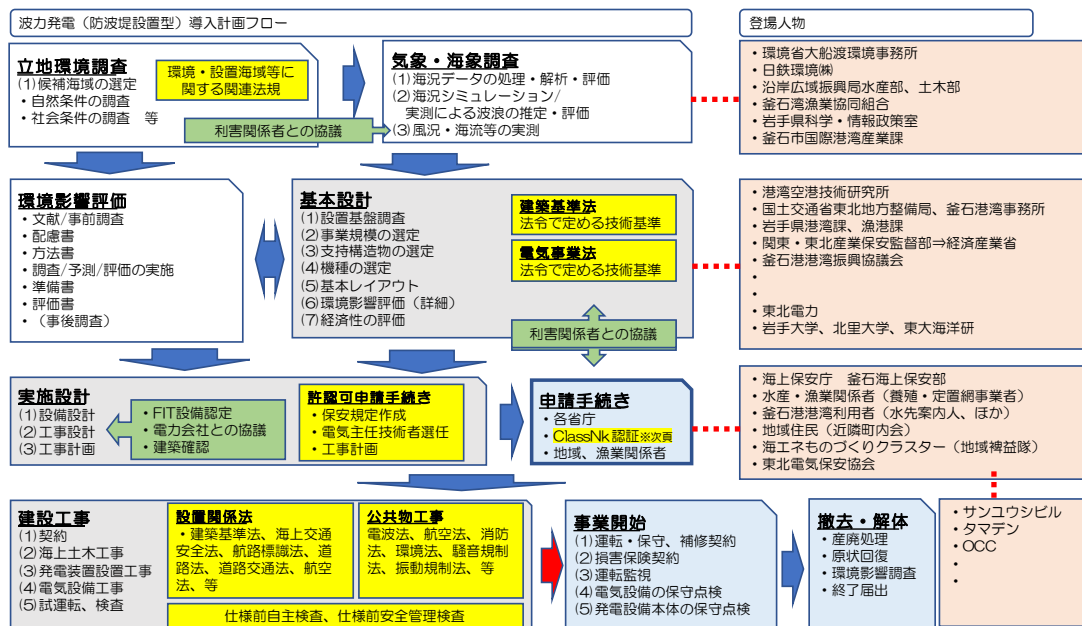
実証期間の延長の許可を受けて、以下に示す実証期間延長のスケジュールを作成した。





## イ) 地域経済循環ビジネスモデルの具体的な事業計画の構築と、普及・展開のための課題の整理と検討

波力発電システムの地域での社会実装と実用化から普及・展開を進めるための事業計画を策定する指針として、日本海事協会の洋上風力発電認証システムを参考に、プロジェクト関係者で協議し、以下に示す、「波力発電導入フロー」を策定した。



## ②釜石沖海洋資源利活用の実現化検討

本波力発電設備を含めた防波堤の周辺利活用と地域経済循環を視野に入れた波力発電防波堤利活用に関する課題を抽出し、利活用の可能性を精査し、実現化を図るため、共同実施者や地域のステークホルダー、関係行政等との協議を行い、以下の項目について整理した。

併せて、本事業終了後の地域経済循環ビジネスモデル実現に向けた官民共同実施体制を構築するため、岩手県、釜石市の所管部局との協議をおこなった。

### ア) 釜石沖海洋資源利活用の可能性の検討

波力発電システムの実証事業終了後の社会実装が想定されるケースごとに、その可能性、目的、課題、資金等について次の表のとおり整理を行った。実証事業期間の終了までにターゲットの絞込みを行い実用化の実現を目指す。

○波力発電の今後（R5\_9月以降）想定される展開⇒環境省プロジェクトチームの合意と県と市の支援が必要

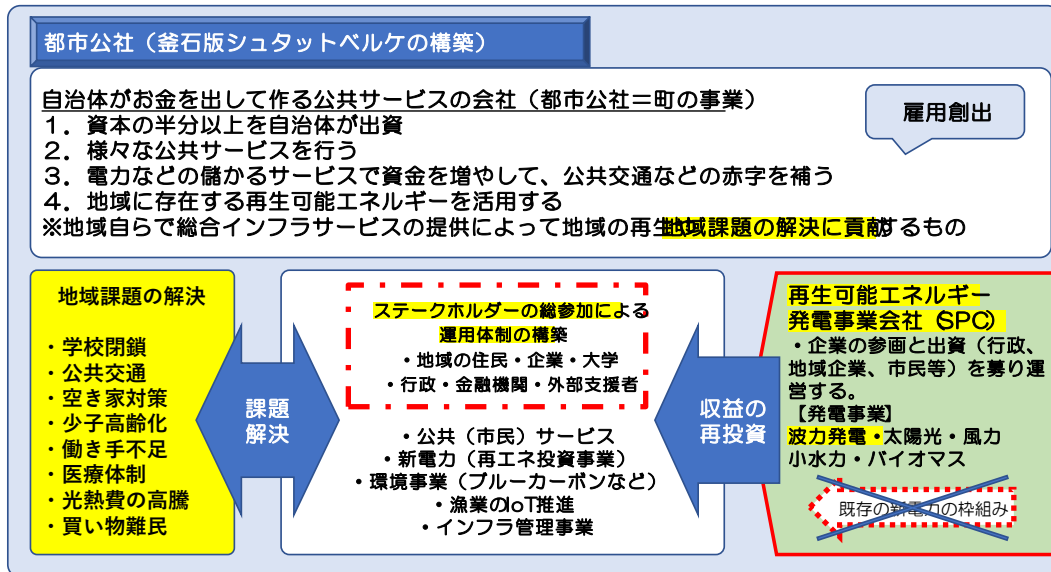
Case	目的	課題	資金、経費（千円）
1. 防波堤中央部 200kW機を新設	<ul style="list-style-type: none"> <li>社会実装（環境省成果）</li> <li>実用化⇒普及</li> <li>実証フィールド利活用</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>官民協働実施体制</li> <li>安全性の担保（国交省）</li> <li>占用許可（県）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>300,000 (Opex)</li> <li>■NEDO_フェーズD_3年3億(2/3)</li> <li>□JST_本格型(50,000×5年)</li> <li>■JST_実装支援_返済型(上限5億)</li> </ul>
2. 100kW又は200kW機の実現の研究開発又は実証事業 ⇒1、4への展開想定	<ul style="list-style-type: none"> <li>環境省成果応用</li> <li>実証フィールド利活用</li> <li>社会実装の確度向上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>基本設計</li> <li>設置工法の開発</li> <li>安全性の担保</li> <li>環境省の理解</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>50000~100000 (実用化研究開発費)</li> <li>■NEDO_フェーズC(2/3)</li> <li>□JST_本格型(50,000×5年)</li> <li>■Go-Tech(3年97,500定額)</li> </ul>
3. 現状(全体)残置 または部分残置 (海底ケーブル・受配電 制御関係機器・機械室) 5年_10年	<ul style="list-style-type: none"> <li>周知、モニタメント</li> <li>環境教育、観光</li> <li>実証フィールド利活用</li> <li>長期データ取得</li> <li>長期運転信頼性の検証</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>官への無償譲渡</li> <li>安全性の担保（国交省）</li> <li>占用許可（県）</li> <li>施設の二重</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>2,500/年 (保険料、点検&amp;OM費用)</li> <li>■自治体予算</li> <li>□マリンエナジー負担FS等獲得 (長期データ取得等_研究開発要素補助金)</li> </ul>
4. 漁港展開 仮宿漁港(仮) 40kW機複数 100kW機 ⇒離島、海外島嶼国展開	<ul style="list-style-type: none"> <li>社会実装（環境省成果）</li> <li>実用化⇒普及</li> <li>漁港の高機能化</li> <li>国土強靱化</li> <li>漁業振興</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>実施体制の検討</li> <li>規模(仕様)の検討</li> <li>基本設計</li> <li>設置工法の開発</li> <li>安全性の担保</li> <li>給電メニュー検討</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>200,000~30,000 (Opex)</li> <li>■NEDO_フェーズD_3年3億(2/3)</li> <li>■JST_実装支援_返済型(上限5億)</li> <li>□水産庁補助金_漁港機能増進事業</li> <li>⇒★<b>漁港インフラのグリーン化事業</b></li> <li>■水産庁_漁港の予防保全対策</li> </ul>
5. 福島県のCN宣言地域 への貢献(大熊町など)	<ul style="list-style-type: none"> <li>原発被災地域の発展</li> <li>CNへの貢献</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>長期運転信頼性</li> <li>相応の発電量</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>福島県における再生可能エネルギーの導入促進のための支援事業費補助金(経産省) [61.0億円]</li> </ul>

### イ) 地域経済循環ビジネスモデル実現に向けた官民共同実施体制の構築

実証事業終了後の地域経済循環ビジネスモデルを実現する官民協働体制の構築を目指して、地域企業、関係行政機関との検討・協議を行い、波力発電を含む海洋再生可能エネルギーの産業化を地域循環共生圏という地域の総参加で進めることについて次の図のように取り纏めた。

前出の環境省「地域脱炭素移行・再エネ交付金」との連携も視野に入れながら実現を目指していく。

### 再生可能エネルギーで地域課題を解決して、地域循環共生圏を構築



### 3 結果

#### 【成果目標/指標】

- (1) 事業計画書(ビジネスモデル)の策定  
⇒令和5年9月の策定を目指して、課題と可能性の整理を行った。
- (2) 実用化に向けた組織・財源の確保(実行組織の生成および競争的外部資金の獲得)  
⇒実証の後継事業の獲得と実用化を的確に進めるための「波力発電導入フロー」を作成した。
- (3) 官民連携事業の実施体制構築に向けた合議体の設置  
⇒実施体制構築と実用化を実現するための枠組み案を策定し、地域行政への提案を行った。

### 3. 地域産業育成事業（釜石市委託事業）

決算額：7,551,765円（釜石市7,551,765円）

#### 1 目的

地域ものづくり企業の業種・職種・階層・取扱商品/製品などの各層に対して、専門性が高くニーズに対応した知識・技術・機会を提供し、それらを集積させていくとともに、地域ものづくり企業と学生等の若年人材との交流を促すことで、地域ものづくり企業の経営基盤強化・持続的経営の実現を図り、地域経済力の底上げを行うことを目的とする。

#### 2 実施内容

##### (1) 経営基盤強化に関する研修会開催

部門担当者等を対象として、「マーケティング」、「WEB活用」、「人材確保」といった地域企業にニーズ又は有効と考えられるテーマの勉強会等を3回、経営者等を対象として、「経営計画・資金計画」、「業務改善」のテーマとした勉強会（課題解決型勉強会）を2回の計4回の勉強会を実施したほか、食品関連では地域資源を活用した新商品の開発といったテーマで勉強会を実施した。

##### ①課題解決型勉強会（経営者、部門担当者向け）

先般の新型コロナウイルス感染症の拡大やウクライナ情勢などの影響で受注や売り上げの減少などの影響が出ていることに加え、人材不足など労働力確保が課題となっている中、地域企業等が抱える様々な課題に対応するための質的向上を創発していくため、「マーケティング（売上拡大）」、「事業計画・資金調達」、「WEB（SNS, HP）活用」、「業務改善・生産性向上/省人化」の4つをテーマとして、経営

者や部門担当者を対象とした集合研修を岩手県よろず支援拠点の協力のもと開催した。

回	開催日	内 容
第1回	R4. 10. 27 (木)	テーマ：マーケティング、商品開発、売上拡大（部門担当者向け） 会 場：釜石・大槌地域産業育成センター 参加者：6名 内 容：「マーケティング目線で考える売上拡大・商品開発の方法とは」 講師：元気化研究所 代表 佐藤和也氏 （岩手県よろず支援拠点サブチーフコーディネーター）
第2回	R4. 11. 25 (金)	テーマ：事業計画、資金調達、補助金申請（経営者向け） 会 場：釜石・大槌地域産業育成センター 参加者：5名 内 容：「事業計画作成の重要性と作成のポイントとは」 講師：コンサルオフィス岩手 代表 千田直樹氏 （岩手県よろず支援拠点コーディネーター）
第3回	R4. 12. 21 (水)	テーマ：インターネット、SNS、HP（部門担当者向け） 会 場：釜石・大槌地域産業育成センター 参加者：7名 内 容：「SNSやHPの上手な活用方法とそのポイントとは」 講師：デイジー・デジタル・デザイン 代表 笹平拓氏 （岩手県よろず支援拠点コーディネーター）
第4回	R5. 1. 24 (火)	テーマ：生産性向上、業務改善、DX、IT化（経営者向け） 会 場：釜石・大槌地域産業育成センター 参加者：9名 内 容：「IT活用ですぐに取り組める業務効率化する方法とは」 講師：(株)グロータス 代表取締役 中村春樹氏 （岩手県よろず支援拠点チーフコーディネーター）

## ②地域資源活用・新商品開発勉強会開催

食品市場は、コロナ禍の長期化などにより、消費者の価値観やライフスタイルも変わりつつあり、更に、ふるさと納税返品市場など新たな市場も拡大するなど、これまでとは違う視点による商品開発が必要になってきている中で、今後どのような商品が求められるのか、また、どんな視点で商品開発を進めればよいのかを考える機会として開催した。

開催日	内 容
R5. 2. 24 (金)	<p>会 場：釜石・大槌地域産業育成センター</p> <p>参加者：13名</p> <p>内 容：</p> <p>第1部</p> <p>①テーマ：「シン・食の未来」</p> <p>講 師：(株) オフィスハル 代表 後藤晴彦 氏</p> <p>②テーマ「小売の現場からみた商品開発」</p> <p>講 師：岩手県産(株) 小売販売課 課長 長澤由美子 氏</p> <p>第2部</p> <p>個別相談会（事前に申し込みのあった5社が個別の課題を相談）</p> <p>① (有)工藤食品：新商品の開発について</p> <p>② (有)菅原紙器：商品の賞味期限延長について</p> <p>③ (有)金辨商店：販売先の開拓について</p> <p>④ (株)津田商店：商品の拡販について</p> <p>⑤ MOMIJI(株)：販路開拓について</p>

### ③経営者・人事担当者向けセミナー開催

企業の人事担当者を対象に、多様化している働き方や若者の働く意識の変化を学び捉え、若者の早期離職防止や定着を図るとともに事業者の事業継続に役立ててもらおうことを目的に開催した。

開催日	内 容
R5. 3. 3 (金)	<p>会 場：イオンタウン釜石2階 しごと・くらしサポートセンター</p> <p>参加者：4名</p> <p>内 容：「地域企業のための求人作成基礎講座」</p> <p>講 師：パソナ東北創生・ジョブカフェ釜石 林光人 氏</p>

## (2) 企画開発、技術支援

地域企業を中心に企業訪問を行い、現況等の確認に加え経営全般や技術的な課題について聞き取りし、その課題解決に向けた対応や各種支援施策の情報提供を行った。

このうち、技術的な課題に対しては、岩手大学や公設試等の技術支援機関や関係企業等と連携しながら、課題に則した支援を行い、技術基盤の底上げを図った。

また、ものづくり意欲の醸成や技術の向上を目指し、地域企業や次世代を担う人材を対象として、個人・個社で所有の難しいデジタル設備（岩手大学所有）を使用できる環境を整え、利用者の試作・開発、技術訓練を実施した。

### ①企業訪問調査及び個別指導

訪問・来訪件数及び支援企業数、個別指導件数は以下のとおり

項目	全体	釜石市	大槌町	その他
訪問・来訪企業数	151 件	130 件	15 件	6 件
支援企業数	33 件	27 件	4 件	2 件
個別指導件数	44 件	38 件	4 件	2 件

### ②デジタル機器を活用した技術支援

地域企業をはじめ、個人事業者や次世代を担う高校生など、ものづくり技術の向上やものづくり意欲の醸成に繋げるため、岩手大学釜石ものづくりサテライト協力のもと大学所有のデジタル設備を開放したほか、同設備を活用した講習会を実施した。

<開放設備>



(3D-プリンタ)



(カッティングマシン)



(レーザー加工機)



(NCルーター)

※その他、3D-CAD (SOLIDWORKS、Fusion360)、工具などを開放している。

<設備利用（個別利用）>

5社（13回）利用

使用設備：レーザー加工機、3D-CAD、3Dプリンタ

使用用途：商品試作、治具試作、DX相談、施設見学

<設備を活用した講習会（集合研修形式）>

開催日	内容
R5.2.2（木）	デジタル設備を活用したものづくり講座 会 場：釜石・大槌地域産業育成センター 参加者：7名 内 容：利用設備：カッティングマシン、レーザー加工機 講 師：岩手大学 岩手大学高度試作加工センター 武田 洋一 氏、 大志田 宜明 氏 ・内容：施設と設備の紹介／製品のPRのポイント（講演）／ 製作体験／その他の設備の紹介

**（3）販路開拓支援・人材確保支援**

既存商品のブラッシュアップ等を目的とした外部での販売促進・販路開拓の機会を提供した。

また、学生の地域ものづくり企業への就労イメージを醸成するとともに、地域企業の人材市場調査に資するよう、岩手大学等の学生と地域企業が交流する事業を実施した。

**① 釜石・大槌フェアの開催（物販イベント）**

地域企業の商品の販売促進・販路開拓支援を目的に、連携機関である東京都千代田区のプラットフォームサービス（株）においてイベントを開催、広く釜石・大槌の産品をPRする機会を提供し、製品のブラッシュアップ等につなげることきっかけとした。

開期	内 容																								
R5.3.10（金）～ 3,27（金）	場 所：ちよだグルメショップ+A （東京都千代田区神田錦町／ちよだプラットフォームスクウェア内） 内 容：釜石・大槌の商品を委託販売（20品）																								
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>企 業</th> <th>商 品</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>藤勇醸造（株）</td> <td>2品（醤油・ケーキ）</td> </tr> <tr> <td>（有）リアス海藻店</td> <td>2品（塩蔵わかめ・わかめスープ）</td> </tr> <tr> <td>小豆嶋漁業（株）</td> <td>2品（いか沖漬け・塩サバ）</td> </tr> <tr> <td>（株）津田商店</td> <td>2品（ほやバル2種）</td> </tr> <tr> <td>（株）浜千鳥</td> <td>2品（特別純米酒・源水）</td> </tr> <tr> <td>（有）金弁商店</td> <td>2品（いか丸干し・サンマ味醂）</td> </tr> <tr> <td>釜石振興開発（株）</td> <td>4品（釜石ラーメン・サヴァ缶等）</td> </tr> <tr> <td>仙人醸造所</td> <td>1品（冷凍甲子柿）</td> </tr> <tr> <td>創作農家こすもす</td> <td>1品（甲子柿ジェラート）</td> </tr> <tr> <td>かまいしワーク・ステーション</td> <td>1品（きくいもクッキー）</td> </tr> <tr> <td>（有）菅原紙器</td> <td>1品（カラフルCUBE）</td> </tr> </tbody> </table>	企 業	商 品	藤勇醸造（株）	2品（醤油・ケーキ）	（有）リアス海藻店	2品（塩蔵わかめ・わかめスープ）	小豆嶋漁業（株）	2品（いか沖漬け・塩サバ）	（株）津田商店	2品（ほやバル2種）	（株）浜千鳥	2品（特別純米酒・源水）	（有）金弁商店	2品（いか丸干し・サンマ味醂）	釜石振興開発（株）	4品（釜石ラーメン・サヴァ缶等）	仙人醸造所	1品（冷凍甲子柿）	創作農家こすもす	1品（甲子柿ジェラート）	かまいしワーク・ステーション	1品（きくいもクッキー）	（有）菅原紙器	1品（カラフルCUBE）
企 業	商 品																								
藤勇醸造（株）	2品（醤油・ケーキ）																								
（有）リアス海藻店	2品（塩蔵わかめ・わかめスープ）																								
小豆嶋漁業（株）	2品（いか沖漬け・塩サバ）																								
（株）津田商店	2品（ほやバル2種）																								
（株）浜千鳥	2品（特別純米酒・源水）																								
（有）金弁商店	2品（いか丸干し・サンマ味醂）																								
釜石振興開発（株）	4品（釜石ラーメン・サヴァ缶等）																								
仙人醸造所	1品（冷凍甲子柿）																								
創作農家こすもす	1品（甲子柿ジェラート）																								
かまいしワーク・ステーション	1品（きくいもクッキー）																								
（有）菅原紙器	1品（カラフルCUBE）																								



## ②釜石・大槌グルメナイトの開催（食の交流イベント）

「釜石・大槌フェア」の開催期間中に、当地域のファンやサポーター・関係者などを対象に、有名シェフが釜石・大槌の食材を使った料理を提供し、生産者から食材を直接PRする機会を提供した。



開期	内 容
R5. 3. 17 (金)	<p>会 場：結ぶ食房「しまゆし」  (東京都千代田区神田錦町／ちよだプラットフォームスクウェア内)</p> <p>参加者：31名 (関係者 11名)</p> <p>内容：&lt;食材&gt;</p> <p>    釜石：ホタテ、甲子柿、サクラマスほか野菜・海藻類</p> <p>    大槌：大槌ジビエ</p> <p>&lt;プレゼンター&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・サクラマス：釜石ヒカリフーズ (株)  代表取締役 佐藤正一 氏</li> <li>・ジビエ：MOMI J I (株)  代表取締役 兼澤幸男 氏</li> <li>・源水：(株) ソーシャル・ネイチャー・ワークス  代表取締役 藤原朋 氏</li> </ul>



### ③学生交流事業

地域企業の学生ニーズ収集及び岩手大学等の学生を対象とした釜石の地域背景の理解や企業情報の習得を目的とした企業見学会であり、参加した学生が、地域企業の現場見学や企業課題、復興への歩み等を理解するため、企業代表との座談会など雇用状況や企業が求める人材等について情報交換を行った。

開催日	内 容								
R4. 8. 3 (水)	<p>学生向け釜石地域の企業見学会 (バス移動)</p> <p>・ 見学企業：6 社 (以下の 2 班に分かれ見学)</p> <table border="1" style="margin-left: 40px;"> <thead> <tr> <th>コースⅠ：3社</th> <th>コースⅡ：3社</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・ (有)ヤマキイチ商店</td> <td>・ (株)井戸商店</td> </tr> <tr> <td>・ 小野食品(株)</td> <td>・ 岩手缶詰(株)</td> </tr> <tr> <td>・ (株)浜千鳥</td> <td>・ (株)エイワ</td> </tr> </tbody> </table> <p>・ 参加者：23 名</p> <p>岩手大学 学生 6 名 (2 年生)・引率者 3 名            青山学院大学 学生 7 名 (3 年生)・引率者 1 名            地域おこし協力隊 1 名            釜石市商工観光課 2 名            当センター 3 名</p>	コースⅠ：3社	コースⅡ：3社	・ (有)ヤマキイチ商店	・ (株)井戸商店	・ 小野食品(株)	・ 岩手缶詰(株)	・ (株)浜千鳥	・ (株)エイワ
コースⅠ：3社	コースⅡ：3社								
・ (有)ヤマキイチ商店	・ (株)井戸商店								
・ 小野食品(株)	・ 岩手缶詰(株)								
・ (株)浜千鳥	・ (株)エイワ								



(有)ヤマキイチ商店



(株)井戸商店



小野食品(株)



岩手缶詰(株)



(株)浜千鳥



(株)エイワ

### 3 結果【成果目標／指標及び事業実績】

- (1) 企業訪問数月間 10 社以上(賛助会員以外企業 1 社以上を含む)⇒151 社(うち賛助会員以外企業 52 社)
- (2) 企業訪問による支援案件の抽出(12 件以上)⇒44 件
- (3) 支援案件の具体的な着手(勉強会の開催 3 回以上)⇒勉強会 6 回開催
- (4) ファブラボの運用スキームの確立と運用開始⇒設備マニュアルを整備したうえで設備開放(運用開始)
- (5) 新商品開発案件のニーズ調査と掘り起こし(3 件)⇒3 件
- (6) 新商品開発の案件化(3 件)と商品化(1 件)⇒案件化 3 件、商品化 0 件
- (7) 補助金等外部資金の獲得支援(3 件以上)⇒3 件
- (8) 人材創生に関する大学との連携スキームの確立と試験的受け入れの開始(当期は人数的指標の設定は行わない)⇒岩手大学との連携により企業見学会を開催

## 4. 地域活性化雇用創造プロジェクト事業 (岩手県補助事業)

決算額 : 8, 047, 000 円 (岩手県 8, 047, 000 円)

### 1 目的

釜石・大槌地域では、高齢化や若手人材の流出等、慢性的な人材不足が大きな課題となっており、それを解決するためには、DX等デジタル技術の活用が必要不可欠である。

本事業では、工場等における製造及び加工においてデータとデジタル技術を活用するための勉強会を実施し、各社におけるデジタル基盤や付加価値向上はもとより、ものづくり企業による新事業の創出及び雇用の拡大に繋げる。

### 2 実施内容

#### (1) デジタル技術普及セミナーの開催及び導入支援

事業主等を対象に、DX(デジタル技術)の活用に関する事例紹介やDXの基礎を解説及び地域内・県内での活用事例の紹介等を実施した。

回	開催日	内 容
第1回	R4. 8. 30 (火)	場 所：釜石・大槌地域産業育成センター 参加者：8名 内 容：第1回 DX 地域産業デジタル化推進セミナー テーマ：産業のDXについて～DXとは何か、取り組むにあたり必要な考え方～ 講 師：ソフトバンク（株） 5G&IoTエンジニアリング本部 東北IoT技術部 ソリューション技術2課 課長 横関 勤 氏 事例紹介：(有)小島製菓 代表取締役 菊地 広隆 氏 石村工業（株） 代表取締役社長 石村 栄喜 氏
第2回	R4. 10. 25 (火)	場 所：釜石・大槌地域産業育成センター 参加者：3名 内 容：INS マーケティング研究会 in 釜石 ・中小機構支援ツール紹介（オンライン） 「IT 経営簡易診断」 「ジェグテック」 ・凸版印刷（株） DX ソリューション製品説明会 「棚卸一括確認システム」 「プロジェクションマッピングによるピッキングシステム」 「危険学習VRシステム」 「計量（液体、個体）システム」 「入館対応 IC タグ関連」 「食品、工業製品などカーボンニュートラルに対応した梱包資材他」
第3回 （個別 指導）	R4. 11. 22 (火)	参加者：1名 内 容：「RPA」について ソフトバンク（株） 岡本匡平 氏（オンライン） 釜石市総合政策課 DX 推進室 鈴木清志 氏
第4回	R5. 1. 20 (金)	場 所：釜石・大槌地域産業育成センター 参加者：8名 内 容：第2回 DX 地域産業デジタル化推進セミナー テーマ：中小企業でも活かせるDX 基調講演：「中小企業でも活かせるDX」 （合）コンサルانس 代表 高安 篤史 氏 情報提供：①「最先端の制御技術で水上作業を自動化」 炎重工（株） 荻野 亮 氏 ②「デジタル支援ツールのご紹介」 いわて産業振興センター 田中 裕也 氏

第5回	R5.3.3 (金)	<p>場 所：イオンタウン釜石</p> <p>参加者：6名</p> <p>内 容：第3回 DX 地域産業デジタル化推進セミナー</p> <p>テーマ：「令和4年度デジタル技術導入・活用支援事業 取り組み紹介」</p> <p>発表者：釜石・大槌地域産業育成センター 梅谷 庄二 基調講演</p> <p>テーマ：「身近で使えるデジタル技術、お金をかけずにDX！」</p> <p>講師：(合) コンサランス 代表 高安 篤史 氏</p>
-----	------------	---

## (2) デジタル技術講習会の開催

従業員等を対象に、デジタル技術を活用できる人材を育成するため、CAD 等ソフトの操作指導及び、操作体験を実施。

回	開催日	内 容
第1回	R4.7.28 (木) ～29 (金)	<p>場 所：釜石・大槌地域産業育成センター</p> <p>参加者：6名</p> <p>内 容：SOLIDWORKS 基礎講習会</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・概要 CAD とは？/3DCAD の機能/活用範囲 など</li> <li>・基本操作 モデリング</li> <li>・ソリッドモデリング (スケッチ、押し出し、回転、フィレットなど)</li> <li>・アセンブリ (組立)</li> <li>・3D プリンターで出力してみよう</li> </ul>
第2回	R4.10.13 (木) ～14 (金)	<p>場 所：釜石・大槌地域産業育成センター</p> <p>参加者：6名</p> <p>内 容：SOLIDWORKS 応用講習</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・マルチボディについて</li> <li>・コンフィギュレーション・設計テーブル</li> <li>・サーフェス機能</li> <li>・その他 便利な機能紹介</li> <li>・板金機能使用のメリットについて</li> <li>・SOLIDWORKS による板金部品作成方法</li> <li>・板金コマンド解説</li> <li>・その他 機能紹介</li> </ul>
第3回	R5.2.2 (木)	<p>場 所：釜石・大槌地域産業育成センター</p> <p>参加者：7名</p> <p>内 容：デジタル技術を活用したものづくり講座</p> <p>講師・操作指導 岩手大学高度試作加工センター 武田 洋一 氏、 大志田 宜明 氏</p>

		<ul style="list-style-type: none"> <li>・施設と設備の紹介</li> <li>・製品のPRのポイント</li> <li>・製作体験</li> <li>・その他の設備の紹介</li> </ul>
第4回	R5.2.22(水)	場 所：釜石・大槌地域産業育成センター 参加者：6名 内 容：3DCAD+3Dプリンター体験セミナー <ul style="list-style-type: none"> <li>・3DCADのメリットと活用術</li> <li>・これからのものづくりと3Dはどうなるか？</li> <li>・3DCAD(Fusion360)での設計とシミュレーション</li> <li>・3Dプリンターへのデータ変換</li> <li>・3Dプリンターの使い方</li> </ul>

### 3 実施結果

#### 【成果目標／指標及び事業実績】

(1) DX(デジタル化)に関する地域内共通の課題を抽出(3件)

⇒6件

- ・DX、ITリテラシー不足
- ・バックオフィス改善
- ・既存ソフト等の有効活用
- ・自社HP、SNS活用
- ・AI予測、RPA活用用途
- ・その他

(2) 勉強会参加企業・個人事業主数(9社以上)

⇒10社(企業、団体、個人)

(3) 具体的な取組事例への支援(1件以上)

⇒1件(RPA技術を活用しバックオフィス業務改善)

#### 5. ものづくり人材育成事業(岩手県沿岸広域振興局委託事業)

決算額：880,000円(岩手県沿岸広域振興局 880,000円)

##### 1 目的

沿岸広域振興局管内の製造業を営む企業の人材育成に対する意識を高め、若手人材育成を行う体制の整備につなげ、人材育成による企業基盤の強化を図る。

また、沿岸広域振興局管内の製造業に勤務する若手人材が、自ら問題を発見し、改善するような人材となるための意識改革を図る。また併せて異業種交流による相互刺激及び人材育成の促進を図る。

## 2 実施内容

このセミナーは、経営者向け・従業員向け・経営者＋従業員向けの3部構成で、内容が「システムコーチング」、「体感学習」、「ワーク」の組み合わせからなり、参加者の多くが参加経験のない新しい形式で構成されていることから、研修効果の測定と今後の展望を俯瞰する目的で講師による講評と受講企業に対するアセスメントを併せて実施した。

### (1) 経営者向けセミナー

人材教育の基礎となる「目的意識を共有したチーム化」を図るために体感学習の手法を用いて、「組織が成長する過程とは」、「関係性がどのように成功に結びつくか」、「組織内の関係性はどの様に醸成されるか」を学んだ。

開催日	内 容
R5. 1. 18 (水)	会 場：釜石市民ホールギャラリー 参加者：8名 講 師：(株) EoD 代表取締役 吉田 和美 氏 同 執行役員 山崎 直子 氏 内 容：様々な理論に基づいたワーク、アクティビティーを行った。 (タックマンのチーム成長モデル、ダニエルキムの成功の循環モデル、ミンデルの「3つの現実レベル」モデルなど)

### (2) 従業員向けセミナー

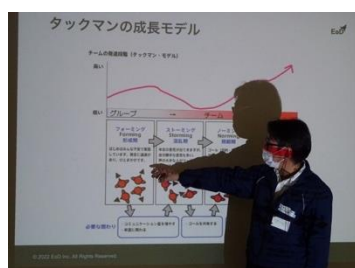
従業員が自主的な成長を遂げるための重要な要素である「リーダーシップのあり方」を理解することを目的として、「他人をリードする前に自分をリードする方法」、「リーダーシップとは何か」、「職場での関係性を整えると作業効率が上がり、より成果が出やすくなる」ことを体感学習の手法を用いて体感的に学んだ。

開催日	内 容
R5. 1. 19 (木)	会 場：釜石・大槌地域産業育成センター 参加者：7名 講 師：(株) EoD 代表取締役 吉田 和美 氏 同 執行役員 山崎 直子 氏 内 容：様々な理論に基づいたワーク、アクティビティーを行った。 (リーダーシップとリーダーの違い、セルフリーダーシップとは、ジョハリの窓、タックマンのチーム成長モデル)

### (3) 経営者+従業員の合同セミナー

上司部下の関係性を目標達成に反映する手法、部下のチャレンジを応援・支援する方法を実践から学んだ。従業員チームがミッションを実行する様子を経営者チームが客観的に状況を捉え、応援支援する具体的手法の理解実践を通して、部下が自主的な成長を遂げるための重要な要素である「リーダーシップの発揮」についての理解を深めることを目的とし、これらの体験を通して上司部下の双方が「職場での関係性を整えると作業効率が上がり、より成果が出やすくなる」ことを体感的に学んだ。

開催日	内 容
R5. 1. 20 (金)	会 場：釜石・大槌地域産業育成センター 参加者：15名 講 師：(株) EoD 代表取締役 吉田 和美 氏 同 執行役員 山崎 直子 氏 内 容：様々な理論に基づいたワーク、アクティビティーを行った。 (タックマンのチーム成長モデル、神話の起源、認識の共有)



「共有認識の形成」



「体感学習」



「どんなチームをつくりたいか」



「受講者一同」



## 6. 釜石サクラマスブランド化支援事業（NTT 東日本委託事業）

決算額：4,285,325 円（NTT 東日本 4,285,325 円）

### 1 目的

釜石市では、近年の環境変化に伴う主要魚種の漁獲量減少への対応策の一つとして、岩手大学と地域事業者が連携してさんりく養殖産業化プラットフォームを形成し、養殖産業の活性化に向けた取り組みを行っており、その中で釜石湾内における新しい養殖魚種として「釜石はまゆりサクラマス」の育種が行われている。本事業では、現在の試験研究から本格的な産業化の段階に移行するにあたり、「釜石はまゆりサクラマス」の市場への浸透度を高めるためのブランディング戦略の策定に向けた科学的な基礎データの収集分析を、NTT 東日本の委託事業として実施した。

### 2 実施内容

サクラマスの特徴を明らかにするために、サーモン系魚種の特徴のひとつとされる脂肪含有量に着目し、個体の尾叉長などの各体測値と脂肪含有量の相関性の分析、破壊・非破壊の両検査による個体脂肪含有量の測定、大量出荷を前提とした非破壊検査方法の確立に向けた画像診断技術を活用した脂肪含有量の判定手法の研究をおこない、本格的な出荷に備えた選別基準の設定による「釜石はまゆりサクラマス」のカテゴリライズに向けた基礎的知見の集積を図ることにより、ブランディングの方向性を釜石市及びさんりく養殖産業化プラットフォーム内に設置する「釜石サクラマスブランディングプロモーションコンソーシアム」に提言することを目的とした。

#### （1）各外観計測値と脂肪含有量の相関性分析

##### ①実施内容

サクラマスのブランディングにおけるカテゴリライズの有効性を把握することを目的として、サクラマスの外観計測値と脂肪含有量の相関性を把握するために、各種計測機器、魚用品質状態判別装置「フィッシュアナライザーPRO」/DFA110 及び「フィッシュアナライザー」タイプS フィッシュアナライザ（大和製衡株式会社）による計測分析（実施回数3回、合計300尾）を行なった。

##### ②計測結果と考察

各指標の相関関係から、計測した尾叉長、重量、胴回り、脂肪率のいずれの値とも当てはまりの高い結果となり、かつ各測定値との間に正の相関性が認められることから、破壊検査の結果との組み合わせによって簡易な機器を用いた脂肪率測定法の精度を向上させることは可能と考えられ、脂肪含有量を今後のブランディング戦略におけるカテゴリライズの有効な指標として活用できる可能性を示唆する結果となった。



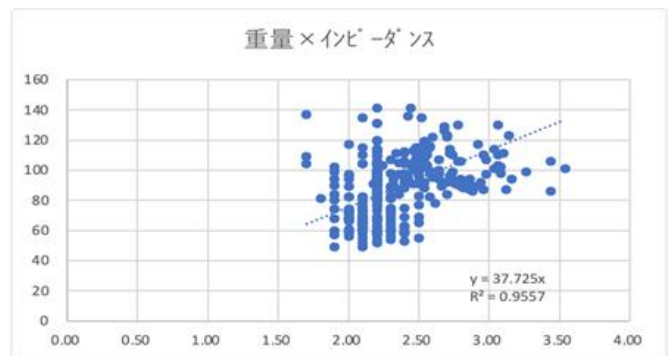
サンプルの個体比較



測定作業（胴囲）



フィッシュアナライザーによる  
脂肪量測定



測定結果の分布図

## (2) 試食（サクラマス）による人の味覚と脂肪含有量の相関調査

### ①実施内容

市場における商品の評価は、加工販売事業者だけではなくサクラマスのブランド化に当たっては、まず検討の前段として「消費者がサクラマスをどう評価するか」という観点が必要な要素となることから、東京で実施された下記催事の無作為に抽出した来場者に対して、サクラマスの解凍フィレ肉（刺身）の試食（原則調味料は不使用）を行い、リッカード尺度を利用したアンケート結果を分析し、ブランディング及びプロモーションへの適用を考察した。

#### ア)「アグリビジネス創出フェア」

日 時：2022年10月26日（水）～28日（金）

会 場：東京ビッグサイト

アンケート回収数：262件（3日間合計）

#### イ)「JFフードサービスバイヤーズ商談会2022」での試食アンケート調査

日 時：2022年11月15日（火）

会 場：TOC ビル（東京都品川区西五反田）

アンケート回収数：165 件

## ②調査結果と考察

アンケート結果はいずれも「歯ごたえ」、「脂の乗り」、「おいしさ」、「購入意向」の各項目について中間値の回答が多く、全年代で同様の傾向を示した。これは「歯ごたえ」と「脂の乗り」のバランスのあるサクラマスの特徴が評価されたと考えられた。

### （3）サクラマスにおける破壊検査・非破壊検査の比較分析

科学的分析については、国立大学法人岩手大学農学部の袁春紅准教授に分析業務を再委託し、

- ・冷凍サクラムスのインピーダンス測定（非破壊検査）と破壊検査による測定結果の比較を行い、フィッシュアナライザーにおけるサクラマス専用モードの設定を目的とした分析
- ・比較魚種の同様の測定結果との比較
- ・画像診断の結果との相関性を検証し、非破壊検査の精度向上に向けた分析を行った。

## 3 考察とまとめ

サクラムスの各計測値と脂肪含有量との相関関係の分析の結果、平均値を大きく上回る脂肪含有量を示したサンプルが一定数存在したことが確認された。このことから、一定の基準を満たすサクラマスを「釜石はまゆりサクラマス”極（きわみ）”」などとブランド化して市場価値の向上を図るといったマーケティング戦略策定の可能性を示唆していると考えられた。また破壊検査による計測結果から非破壊検査用の判定指標の決定を行うことを当初目的としていたが、分析の結果からは、冷凍サンプルの特性により回帰式の確立には至らなかった。今後については、生の同一個体のラウンドサンプルの破壊・非破壊検査の比較分析によって計測値と脂肪率との関連性を精査し、併せて画像検査との組み合わせによって更なる精度向上を図る取り組みを継続することにより実用化の可能性が高まると考えられた。

これら結果から、本事業の目的であった「大量の水揚げに対し、適切なカテゴライズによって適切な値付けを行い、『釜石はまゆりサクラマス』としてのブランドを適正に確立する」ための取り組みの可能性を確認できたと考えられた。

## 5. 情報提供事業

当センターホームページ及びフェイスブック・電子メール等を活用し、当センター主催または関係機関が主催するセミナーの開催情報や国・県・市町村等の支援情報や補助金・助成金の公募に関する情報等を随時提供した。

その他、当センター1階及び2階ロビーにて、地域企業等の製品展示を行い、製品及び技術紹介を行った。

### ・実施内容

#### (1) インターネットを活用した情報発信

- ・当センターホームページ、フェイスブック、電子メールにより、セミナー情報、補助金情報、会員企業情報等、延べ149件を情報提供した。

(内訳) ホームページ：50件、フェイスブック：56件、  
電子メール：43件

#### (2) 製品展示

- ・1階、2階各ロビー（地域企業の製品等）
- ・東大阪市モビオ（地域企業製品及び海洋エネルギー事業のPR）  
また展示内容については、経年を踏まえて内容の見直しを協議中。

## 6. 特許関連

地域中小企業者等が産業財産権（特許・実用新案・商標・意匠）の出願の検討に対する協力・支援を目的に、先願の検索調査や出願手続き等の相談対応の他、岩手県発明協会との共催により、当センターを会場に下記事業を開催した。

### ・実施内容

『知財専門家による相談会』

回数	開催日	相談件数
第1回	R4.5.11（水）	2件
第2回	R4.8.24（水）	2件
第3回	R4.11.18（金）	1件
第4回	R5.2.22（水）	0件

『知財セミナーの開催』

開催日	内容
R4.8.26（金）	会場：釜石・大槌地域産業育成センター 参加者：21名 講師：PDI特許商標事務所

	所長弁理士 東田 潔 氏 内 容：地域特産品のブランド化における商標権の侵害リスク回避 について
--	--

## 7. 交流・人材育成事業

### ・実施内容

#### (1) 釜石・大槌地域産業フェア

地域企業が持つ技術や製品等について、企業展を開催し地元高校生や一般市民に対し広く周知し、地元就職利率の向上を図るとともに、地域のものづくりに対して理解を深めてもらう機会を提供することを目的として開催した。

開催日	内 容
R5. 3. 3 (金) ~5 (日)	「令和4年度釜石・大槌地域産業フェア」 会 場：イオンタウン釜石2階 しごと・暮らしサポートセンター内 案内先：釜石商工高校、釜石高校、大槌高校 来場者：76名（うち高校生は52名） 内 容：地域企業17社、2団体の製品展示 また、岩手大学ブースで「ものづくり体験コーナー」を開 設し、3Dプリンターの実演を行ったほか、来場した高校 生にはレーザー加工機で好きな文字などを刻印したノベル ティーを配布（カラビナ・ボールペン）



## 8. その他、復興支援等の地域企業支援関連

地域中小企業が新規事業等に取り組む際の協力・支援を目的として、国・県・市等の各種補助金制度の活用を勧め、その申請に係る申請書作成等の作成支援及び採否の結果によりフォローアップを行った。

また、様々な経営課題に対し、相談窓口として対応し、必要に応じて専門家派遣事業を活用し支援を行った。

### 【支援内容】

#### (1) 補助金申請支援

補助事業名	対象企業	分野等
事業再構築補助金	(株) 及川工務店	新分野展開
いわて希望応援ファンド	同和鍛造 (株) 釜石事業所	新製品開発・販路開拓
事業復活金	雁部冷蔵 (株)	コロナ対策

#### (2) 専門家派遣 (中小企業 119 専門家派遣)

対象企業	案件	回数
(株) プラネックス	販路開拓	1 回

## 【収 1 貸館事業】

### 1. 貸館事業

地域中小企業の基盤強化や人材育成及び震災復興関連等、地域の産業再生や地域の活性化による公益の増進に資する利用者に対し、低廉な金額で財団の施設を貸し出すもの。

#### 【事業内容】

- ・会議室 (大会議室・中会議室) の有料貸出
- ・コミュニケーションスペースをシェアードオフィスとして有料貸出

#### 【令和 4 年度実績】

##### (1) 大・中会議室の貸出

延べ 58 団体、収入額 801,100 円

(R3 年度 : 52 団体、677,550 円、 前年対比 : 118% 123,550 円増額)

(2) 研究室等貸出事業

- ・第1研究開発室：(有)小島製菓
- ・第2研究開発室：(有)小島製菓
- ・小会議室①：岩手県立大学、岩手大学
- ・小会議室②：(株)小原建設 釜石営業所、(協)シーテック

(3) シェアードオフィスの貸出

5団体：<月額(税込)：5,500円/社>

No	企業・団体名	備考(業種)
1	かまいし水産振興企業組合	鮮魚出荷、レストラン
2	東北アシスト工業	機械金属(設計)
3	(株)マリンエナジー	再生可能エネルギー
4	(株)スターロードシステム	車両運行、従業員送迎
5	アローリンクス(株)	Webシステム開発、Webサイト制作

【 その他 】

**1. 会議関係**

(1) 理事会の開催 4回(定例2回、臨時2回)

名称	開催日	主な議題
第1回定例	R4.6.6(月)	令和3年度事業報告及び決算報告
第1回臨時	R4.9.28(水)	就業規程の改定
第2回臨時	R4.12.19(月)	臨時評議員会の招集(※書面決議)
第2回定例	R5.3.23(木)	令和5年度事業計画及び収支予算

(2) 評議員会の開催 2回(定時1回、臨時1回)

名称	開催日	主な議題
第1回定時	R4.6.28(火)	令和3年度決算報告、役員・評議員選任
第1回臨時	R5.1.16(月)	辞任に伴う理事の選任(※書面決議)

(3) 監事会の開催 1回

名称	開催日	監査対象
監事監査	R4.5.30(月)	令和3年度決算監査

## **2. 一般管理業務**

○センター運営、会館の管理

○賛助会員入会の案内、勧誘

セミナー、研修、支援等の機会において、入会案内を実施。

※令和4年度 賛助会員新規入会企業

・株式会社青紀土木（釜石市：土木、建設業）

賛助会員企業数：77社（釜石市：62、大槌町：10、盛岡市：2、

大船渡市：1、遠野市：1、一関市：1）

期中増 1社、 期中減 0社

○会館施設利用のPR